



6/28(火) 災害時におけるLPガスの供給に関する協定を締結

浦添市と一般社団法人沖縄県高圧ガス保安協会 LP ガス部会との間で「災害時における LP ガスの供給に関する協定」が結ばれました。

この協定により、浦添市が災害時に LP ガス供給が必要であると認めるときは、災害時避難場所（公共施設）等に対し LP ガス供給の協力を要請することができるようになりました。

市長は今回の協定締結は「迅速かつ的確な支援活動を遂行し、市民生活の安定に寄与するものであり、大変意義深い」と話しました。



6/29(水) 飲酒運転の根絶に向けて

浦添市と浦添警察署の間で、「飲酒運転根絶に向けた協働行動に関する覚書」が交わされました。これは依然として後を絶たない飲酒運転の根絶に向けた取り組みを市と警察署の両方で推進していくという内容です。

浦添警察署の崎原署長から「お酒を飲んでそのまま運転する人はもちろん検挙しますが、危険なのは朝の出勤時にお酒が残った状態に気付かないで運転している人です。これらも酒気帯び運転や飲酒運転として検挙されるため十分に気を付けてほしいです」と注意喚起がされました。



7/12(火) お米と子どもたちの笑顔実る

15年以上続く前田小学校の伝統行事「田植えと稲刈り」。去る3月に地域の人たちと一緒に植えた稲はたわわに実り、7/12(火)収穫の時期を迎えました。

田んぼに入ったのは同校5年生の子どもたち。みんなカエルのたまごやヤゴを見つけては歓声を上げ、初めて使うカマに悪戦苦闘しながらも稲を収穫しました。

子どもたちからは「泥がぬるぬるして気持ち良かった」「自分が植えた稲が実り、とてもうれしい」という声が聞こえ、この日、子どもたちの顔にも笑顔が実りました。



7/11(月) 海外に短期留学

「浦添市中学生海外短期留学生団式」が行われました。市内の中学生5人が、アメリカのワシントン州でそれぞれ2週間ホームステイをします。

市長から「多くの体験をし、楽しいことやつらいこともあると思います。多くの事を学んでください」と激励を受けました。

中学生5人からは、「ジェスチャーを使うなどいろいろな表現にチャレンジしたい」「この機会でいろいろな人との人脈や文化交流をしたい」と意気込みを語り、来場者から大きな拍手が送られました。



6/14(火) 終戦71年～あの日を忘れない～ ～22(水) 沖縄戦パネル展

市役所1階ロビーで、戦争の記憶を風化させないために「沖縄戦パネル・資料展」を開催しました。展示された資料は戦時中の写真パネルのほか、当時、学童疎開を体験された方の証言記録などです。

足を運んだ人は戦争の悲惨な状況を真剣な表情で見入っていました。

20万余りの尊い命を奪った戦争。二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、私たち一人ひとりが過去の教訓をしっかりと次世代へ繋いでいくことが大切です。



7/11(月) 子どもたちの笑顔のために♪

「浦添市てだこ未来応援居場所運営実施事業」の補助交付団体が決まりました。補助交付団体は、「まちづくりNPO うらそえ」「ドルチェの会」「ていーだこども食堂」「陽迎橋自治会」の4団体です。いずれの団体も子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保し、食事の提供、学習支援、キャリア形成など、様々な活動を通して子どもたちの支援に取り組んでいます。

市長は「子どもたちに寄り添い、お互いに情報交換を行い、連携して取り組んでいきましょう。」と活動の継続を応援しました。各団体は、熱意と取り組み状況を紹介し、意見交換をしました。



6/22(水) JICAボランティアの出発および活動報告

6月28日から2年間、高山せいこさんがブラジルにJICAボランティアとして派遣されます。

高山さんは「沖縄の伝統・文化を伝え、エイサーなどを踊って楽しんでもらいたい」です。「また、県人会本部および各支部の活性化を目指していきたいです」と抱負を語りました。

一方、平成26年7月から平成28年3月までパラグアイ共和国のペドロ・アギレラ小学校で活動した眞喜志直子さんが報告に表敬訪問しました。現地では主に算数指導を行い、他にも看護師隊員との歯磨き教室、栄養教室、日本文化紹介を行いました。今後は教鞭を執る浦添小学校など、あらゆる場面で「パラグアイでの経験を伝えていく」と語りました。